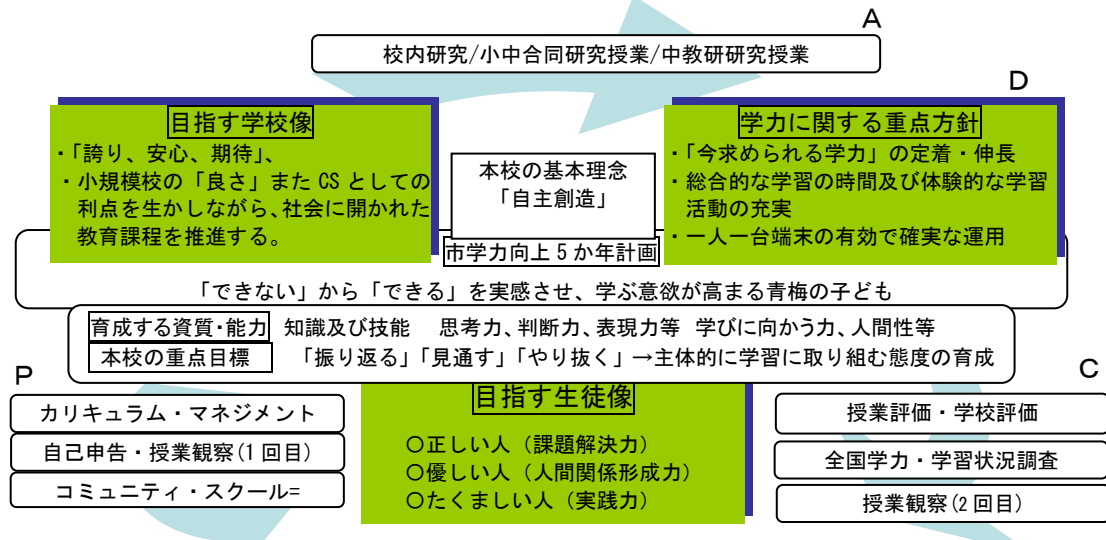


令和6年度 学力向上推進プラン

令和6年4月1日
青梅市立第六中学校校長 岩崎浩示

I 学力向上に向けた『PDCA』サイクルのイメージ



II 学力諸調査における分析

○『全国学力・学習状況調査』（3年生対象）

教科	国語	数学	英語	英語話すこと
本校(都)%	63.3(70.1)	45.3(51.4)	43.5(46.1)	18.0(12.9)
昨年度本校の正答率：国 63%（都 70・国 69）、数 45%（都 54・国 51）、理 42%（都 51・国 49）				

教科の調査【上記の表】においては、難易度等を考えると単純な経年比較はできないものの、本校平均正答率と都や国との差から、すべての教科において基礎・基本の定着及び思考力・判断力・表現力等の伸長が大きな課題である。

また、『生徒質問紙調査』においては、「（話し合いで）考えを深めたり、広げたりできた」という設問に対して、本校は 81.9%（都・国ともに 80%前後）が肯定的な回答であり、昨年度の 59%を大きく上回った。一方、「学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる」では 55%（都 60%）、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」では 36%（都 79%）と下回り、「主体的な学び、主体的に学習に取り組む態度」が課題である。

○『東京都学力向上を図るための調査』（全学年対象）【生徒質問紙調査】

教科	国語	社会	数学	理科	英語
本校(都)%	89.5(92.5)	82.6(70.3)	84.6(85.1)	80.4(81.4)	76.5(70.3)

「[学びの姿]（各教科について）よくわかる・どちらかといえばわかる」【上記の表】という設問に対して、教科により差異はあるものの、昨年度の肯定的な回答の割合の 61%（都 83%）と比較し総合的に上昇している。めあての明確化やタブレットの効果的な活用の成果と考えられる。

○授業評価の分析…生徒による授業アンケート【第1回（一学期末集計）】

教科 %	国語	社会	数学	理科	英語
全学年/()は昨年度	83 (70)	81 (54)	85 (54)	95 (63)	100 (64)

「今日の授業で何を学ぶか(何をするか)理解している」【上記の表】という設問に対して、肯定的な回答の割合がすべての教科において 80% 以上を示しており、見通しをもって授業に臨むことはできている。

Ⅲ 学力向上を図るためのビジョン

1 『六中授業スタンダード』の実践の徹底

主体的に学習に取り組み態度の育成、特に学習に見通しをもって粘り強く取り組む態度の育成を最優先課題とし、以下の実践を徹底する。

- (1) 「六中授業スタンダード」の実践を徹底する。
 - ・すべての学習活動（導入、展開、終末）において、「ねらいに返す」ことに留意する。
 - ・スモールステップによる指導、一人一台端末の活用など、授業のユニバーサルデザイン化を推進する。
 - ・「参加→習得→活用→探究」という学習プロセスを大切にしたい単元、授業を展開する。特に、交流学习や言語活動を中心に、各単元で一回以上は「活用」また「探究」といった学習活動を設定する。
- (2) 「デジタルとリアルの最適な組合せ」、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に留意しながら、一人一台端末を効果的に活用する。
- (3) 生徒が、「わかった」「できた」といった達成感や成就感を得られる、工夫した授業を実践する。併せて、生徒の自信や誇りの醸成も図る。
- (4) 学習カードの利用など、自己評価の活用を工夫する。
- (5) 総合的な学習の時間、特に SDGs に係る学習を軸として、課題を発見及び解決する力や探究心や、思考力・判断力・表現力を育成する。
- (6) 学力諸調査等において、選択した項目における平均値が目標値と同等、また上回ることを具体的な目標とする。

Ⅳ 具体的方策

(1) 主に生徒の学力向上を図る取組

① 「総合的な学習の時間」の学習の充実

『青梅学』（地域に関する学習）に関わる学習活動を通して、主体的に学習に取り組む態度、および思考力・判断力・表現力等を養う。また、地域人材を主としたゲストティーチャーによる講義・講演により、物事を多角的、多面的にとらえる力を育む。

② 「スタディサプリ」活用による家庭学習の促進

一人一台端末を活用し、家庭学習の充実を図る。

③ 学習教室活用による基礎・基本の定着、並びに学習調整力の向上

定期試験前や長期休業日に学習教室を開室し、基礎・基本の定着を補うとともに、「自学自習」の態度を伸長させる。

(2) 主に教員の授業力向上を図る取組

① 自己申告に伴う面談及び授業観察を機とした協議

年3回の面談、学期に1回の授業観察を機に学習指導に関する協議等を行い、授業力向上の意欲を高めながら、自己研さんを支援する。

② 学力諸調査、学校関係者評価等の分析、活用

学力諸調査の結果や学校関係者評価等の内容を分析、活用しながら、各教科において授業改善プランを計画し、学力向上を図る手立てを検討、実践する。

③ 中教研における研究等

「個別最適な学習と協働的な学習の一体的充実」の実践を目指し、各教科で研修を深める。また、小中合同研修会の研究内容も有効に活用する。